

四谷の

千枚田たより



第 189 号

為か、雷もや
や遠のいた
かな、と思っ
ている。

秀兄いと(舜)

記憶、記録に残る天候異変

十九日、「宇連ダム」は貯水率 0% となった。これまでに昭和六十年に貯水率 0%、平成六年には四月から六月の田植え時の大濁水があり、四谷の千枚田でもそれぞれが黒いビニールホースを沢から田んぼに引き込み、少なからずも水騒動があつた経緯が未だに残る。

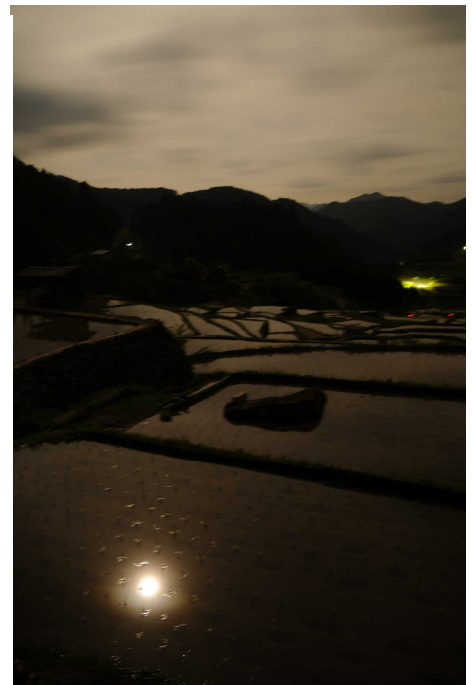
宇連ダムは昭和三十三年に完成、翌年には愛知県東部と静岡県西部の六つの市に水を供給する豊川用水の水源として東三河の経済発展に大きく寄与している大切な水瓶である。

思い出に、宇連ダムは我々の住む四谷の隣で、位置的に近く、昔は炭焼サなどが入山しており、木の炭の背負出しにも行った覚えがある。また、ダムが出来たことで雷雲が湧きやすいのか茶臼山に匹敵する年間降雨量(新城千六百ミ、四谷二千三百ミ)があつたが、最近はいくつか、悪いものか杉、ヒノキが育ち雷雲も湧きにくくなった

は毎朝五時から六時までに千枚田一周のウォーキングを堪能している。昨年十一月六日に雨で歩かなかつた以来、今日、五月二十七日までの七カ月半、雨で歩くのを止めた日がたつた五日しかなかった。これも平成六年の大濁水に次ぐ濁水で代掻き、田植えに皆んな難儀をした。もし平成三十一年四月三十日から元号改正の令和元年五月一日、それと十四日に雨が降らなかつたら千枚田の多くは田植えができなかつたであろうし、水騒動も起きかねない状況でもあつた。二十一日、七か月半の溜まった雨が一夜にして百五十ミリを記録する豪雨が幸いして千枚田も水飢饉から脱出できた。今から五十年を超す昔は鞍掛山に大雨が降っても水嵩が増えるのは一カ月過ぎだ、などと古老から言い伝えられていたが森林の荒廃から保水力が減少、一旦水として流れる傾向は年々増加の兆しがみえる。湧水に依存する千枚田、鞍掛山の早期森林整備を望む。

保存会総会

5月11日(土)午後7時30分から連谷会館において令和元年度鞍掛山麓千枚田保存会総会が開催された。会長は冒頭、昨年度を振り返って、半世紀余り平穏無事であつた千枚田も空梅雨、熱暑、湧水を水源とする棚田は田んぼの水も温もり稀に見る豊作を目論んでいたが、いざ、収穫を目前に台風20号が持ちこんだ長雨に稲穂が垂れ重なり発芽、それに追い打ちを掛けるように台風24号の襲来でほとんどの稲ハザが倒壊、末期的被害を被つたにも拘わらず再度、稲ハザを立て直し収穫をして頂くなど、天候を相手の千枚田保全には大変なご苦勞をお掛けした。また、恒例行事でもある「お田植え感謝の夕べ」や「収穫感謝祭」には地域ぐるみ、むらおこしの一環とした活動に精を出して頂いたことや会社、学校などの研修、育農学習の受け入れ、景観整備等々の事業、活動等には大きな力を発揮、感謝。恒例となつてしまったパワートレイルエイドステーションの協力出役には大変ご苦勞をおかけした、等々の挨拶があつた。提出された議事、議案は会計からの報告にすべてシャンシャンのうちに成立した。



令和初満月 5月20日 1:45 撮影

令和元年度役員および会員 (25名)

会長 小山舜二 副会長 高橋孝行 顧問 高橋庄一 今泉雅男
理事 高橋伸治 小山孝夫 原田英史 夏目宏一 稲熊富平 会計 松下 誠
会員 金古浩一 古田和男 今泉 徹 小山秀夫 小山傳治郎 中村史樹 村雲伸一 原田 勇
原田武典 丸地典利 丸地光世 稲熊良隆 今泉一憲 田中幸夫 山中哲郎

**田植え
鳳来寺小学校**

五月八日、五年生十一名は四谷の千枚田で代かきを行いました。

天気がよく、天まで続くと思われるほどの棚田の風景をバックに、子供たちは楽しく活動しました。はじめは、恐る恐る水のはった田んぼに足を入れていた子供たちも、慣れてくれば「田んぼプール」と言って、しやがみ込み、泥をかけ合って存分に代かきを楽しみました。

また、今年一年お世話になる小山さんととも会うことができ、カエルのことも教えていただきました。
五月十三日、四谷の千枚田で田植



えを行いました。代かきとは違い、

今度は真剣に苗を植えなければなりませんでした。苗をちぎって線のあるしに沿って田んぼに植えるのですが、苗の本数が少なすぎたり、植え方が浅すぎて浮いてきてしまったりと、なかなかうまくいきませんでした。そのうちに、一人が田んぼの上の方から見て、他の子が植える、足りなくなればまた別の子が苗を届けるという連係プレーが少しずつできてきました。

この小さな苗がお米になるまで、どんなふうになに生長していくのかとても楽しみです。
学校HPより
豊橋調理製菓専門学校



五月九日、一年生二十五名は実習田で田植えを行った。

将来、食のプロを目指す学生たちに食の原点であるコメの大事さ、尊さを体感してもらうために十四年間継続、毎年、冒頭に「お店をだしたら呼んでくれ」と願っているが、まだ呼ばれない。

愛知東農協こども農学校

管内九つの小学校から入校した四十四名は年十回の農業体験に取り組んでいる。

五月十一日、こどもたちは千枚田の長老高橋庄一（保存会顧問）の指導と農協職員のサポートで慣れないながらも初めての田植え体験に嬉々としていた。

県立新城高校農業クラブ

五月十八日、二年生、三年生二十四名（先生四名）は原田英史（保存会理事・県ふるさと指導員）の指導で十一年続く「四谷の千枚田」の育農に和らいだ。

なお、この活動に、JA愛知東農協のご厚意で学生たちの送迎（マイクロスバス）にご協力いただきました。

総合的な学習 現地調査

五月二十四日、千郷中学一年生（四十七名）は市内の観光地を見学し、情報収集や調査を行うことによ

り、身近な地域をより良いものにする方法や地域の将来像について考える。また社会の様々な規則やマナーを身につける。等をテーマに千枚田を視察、（舜）から現地調査、聞き取りなどを実施、収集した事項は学校に持ちかえり纏めを行うそうので、結果を楽しみに待ち望んでいる

景観環境整備

五月二十五日、保存会は六月一日に催す「お田植え感謝の夕べ」を視野にした春の環境整備を行った。



これからの予定

- ・六月六日、豊橋調理製菓専門学校 田の草とり、梅収穫
- ・六月八日、豊川リバーウォーク 視察対応

行 令和元年六月一日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二